

基本練習問題 19-1

<解答>

(A) 直接原価計算方式

損益計算書

I 売上高	95,000	
II 変動売上原価	<u>57,000</u>	Ⓐ
変動製造マージン	38,000	
III 変動販売費	<u>9,500</u>	Ⓑ
限界利益	28,500	
IV 固定費		
1. 固定製造原価	20,000	
2. 固定販売費及び一般管理費	<u>6,000</u>	Ⓒ
営業利益	<u>2,500</u>	

(B) 全部原価計算方式

損益計算書

I 売上高	95,000
II 売上原価	<u>76,000</u>
売上総利益	19,000
III 販売費及び一般管理費	<u>15,500</u>
営業利益	<u>3,500</u>

※販管費＝販売費及び一般管理費の略

【解説】

直接原価計算方式と全部原価計算方式でそれぞれ損益計算書を作成する問題である。全部原価計算方式で損益計算書を作成する場合の売上原価を正しく記入できるかどうか最大のポイントとなる。

Ⓐ変動売上原価

製品 X を 1 個製造するために発生する変動費は 300 円で、当期の販売数量が 190 個だから、変動売上原価は  $300 \times 190 = 57,000$  円となる。

Ⓑ変動販売費

製品 X を 1 個販売するために発生する変動費は 50 円で、当期の販売数量が 190 個だから、変動販売費は  $50 \times 190 = 9,500$  円となる。

Ⓒ固定費

直接原価計算では固定費は当期の販売数量に関係なく、当期の発生額をそのまま記入するため固定製造原価と固定販売費及び一般管理費の当期発生額の合計 26,000 円を記入する。

#### ④売上原価

全部原価計算の売上原価は変動費部分と固定費部分で計算方法が異なるため、分けて考えたうえで、最後に合算して記入する必要がある。

##### ①変動費部分

変動費部分に関しては直接原価計算の場合と同様に、製品 X を 1 個製造するために発生する変動費は 300 円と、当期の販売数量が 190 個をかけて 57,000 円となる。

##### ②固定費部分

全部原価計算では固定費を変動費のように扱うため、当期の固定製造原価発生額を当期の生産数量で割って、次のように製品 1 個あたりの固定製造原価を計算する。

$$20,000 \text{ 円} \div 200 \text{ 個} = 100 \text{ 円/個}$$

当期の販売数量が 190 個だから、1 個あたり固定製造原価にかけることで、売上原価の固定費部分を計算する。

$$100 \times 190 = 19,000 \text{ 円}$$

#### ⑤販売費及び一般管理費

販売費及び一般管理費も変動費部分（50 円×190 個＝9,500 円）と固定部分（6,000 円）に分けて考えたうえで、最後に合算して記入する。